

ディビジョン番号	19
ディビジョン名	化学教育

大項目	6 化学史・科学技術史
中項目	6. 2 博物館でのアーカイブズへの取り組み
小項目	

概要
<p>国立科学博物館では、「産業技術史資料情報センター」の設立や、特定領域研究「江戸のモノづくり」の実施など外部機関との協力関係のもとに総合的に科学技術史資料の調査研究・収集を行う新しい事業を展開している。今後、関連学協会・研究機関などとの連携をさらに深め、特に実物資料の保存をめざして資料庫を充実させ、日本の科学技術史資料の「ナショナルコレクションセンター」としての機能を充実させることが望まれる。</p>
背景
<p>科学系博物館の重要な任務に科学技術の発達過程を示す歴史資料の調査・収集・保管・公開がある。国立科学博物館では、従来から櫻井錠二（化学）や鈴木梅太郎（農芸化学）などに関する歴史資料を収集保管してきたが、最近、産業技術史資料情報センターの設立、科研費特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究（略称：江戸のモノづくり）」の実施など外部機関との連携のもと新しい事業を展開している。</p>
課題と問題点
<p>日本の科学研究や産業技術の発展を支えた歴史資料は、近年、急速に失われつつある。こうした先人たちの足跡を示す歴史資料は、日本の科学技術の発展を検証し、今後のさらなる発展につなげる支えとなる。通産省（現・経産省）が1992年に開始した「産業技術の継承活動」を受け継ぐ形で、2004年6月には国立科学博物館（科博）に「産業技術史資料情報センター」が設立された。そこでは日本の経済成長を支えた産業技術の発展を示す貴重な事物の所在を確認し、その保存と活用を図るために、関連する工業会・学術団体・行政と連携して全国に残る産業技術史資料の所在把握、資料情報の蓄積と公開の活動を展開している。これらの資料情報はデータベース化され公開されているが、実物資料の保存は各所有者にゆだねられている。現在、重要歴史資料の登録制度を実施する準備を進めており、それが始動すれば、重要な歴史資料のセーフティネットとして機能することが期待される。</p> <p>一方、科博が組織した特定領域研究「江戸のモノづくり」は、明治以降の日本の飛躍的な科学技術の発展の基盤となった江戸時代の科学技術史関連資料を中心として網羅的な所在調査・体系化を2001～05年度に実施した。この調査研究を通じて、江戸期を中心にかなりの数の資料が全国各地に残されていることが判明し、膨大な資料リストが作成された。しかし、明治以降</p>

の多くの資料に関する調査はこれからであり、また、化学分野はほとんど調査されなかったなど、今後、検討すべき課題も数多く残されている。所在が知られた歴史資料そのものに関する研究も今後の課題である。この過程で有用性が実証された手法をさらに発展させ、幅広い時代・分野にわたって調査・研究を推進することが望まれる。

一方、調査活動を通じて所在が知られた資料は、所有者により適切に保存されているケースが多いが、情勢の変化により散逸したり失われたりする可能性も否めず、博物館などの施設により将来にわたって保存・活用していくセーフティネットを築き上げる必要がある。

対処方法と解決方法

科学技術史資料の所在情報調査を、全国的規模で幅広い時代、分野にわたって包括的に実施し、その資料情報を一括して検索できるデータベースを構築・充実させていく必要がある。また、所在が知られた資料については、できる限り博物館などの施設で収集・保存できる体制・設備を整える必要がある。こうした科学技術史資料は、日本の知的・技術的活動の足跡を示す“ナショナルコレクション”として位置づけ、それを国として保存していく「ナショナルコレクションセンター」を設立するか、科博のような既存の組織にその機能をもたせ、人的、施設的な充実を図っていく必要がある。

今後推進すべき課題

1. 日本の科学及び技術の発達に関する資料情報・収集の拠点形成。
2. 実物資料の収集・保管・公開機能の充実。
3. 日本の科学技術史資料に関する総合的データベースの作成および検索システムの構築。
4. 日本の科学技術史資料に関する「ナショナルコレクションセンター」の設立。

キーワード

科学技術史、産業技術史、資料セーフティネット、ナショナルコレクションセンター

(執筆者： 若林 文高)